

■豪州：温室効果ガス削減法案の2度目の否決、解散総選挙の可能性

オーストラリア上院議会は2009年12月2日、2011年7月からの排出量取引の導入を規定した「温室効果ガス削減に関する法案（CPRS法案）」を33対41の反対多数で否決した。同法案については、11月25日、下院での審議において、与野党は、石炭産業等への補助金を70億豪ドル（約5,700億円）増額することで合意し、一旦歩み寄りを見せた。しかし、この歩み寄りについて、野党自由党内で反発が強く、12月1日には党首交代に至り、反対派のアボット氏が選出され、今回の否決につながった。同法案は、8月に既に上院で否決されている。憲法の規定により、同法案が2度否決された場合、首相には上下院議会を解散する権限が与えられているため、早期に解散総選挙が行われる可能性が高まっている。ラッド首相は、年内に法案を成立させ、7日から始まるCOP15での国際交渉を優位に進めたい意向を示していた。